

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0492200068
法人名	社会福祉法人 宮城福祉会
事業所名	グループホーム あいやま こもれびの家
所在地 (電話番号)	宮城県柴田郡村田町大字村田字相山100番地5 (電話) 0224-82-2366

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21 年 3 月 25 日

【情報提供票より】(平成 21 年 3 月 7 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.8 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000(光熱) 円
敷金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.5 歳	最低 81 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みやぎ県南中核病院 村田診療所 さくら歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町役場から車で約5分、四季が実感できる自然に囲まれた公園の一隅に、「ふれあいの郷あいやま」として法人の福祉ゾーンがある。老人保健施設、デイサービス、通所リハビリ、小規模多機能施設等と一緒に共生型のグループホーム「あいやまこもれびの家」がある。暮らしなれた地域のもう一つの「我が家」を目指して、「ゆっくり、いっしょに、楽しく、ゆたかに」を理念としてケアの実践に取り組んでいる。同じ棟に若い障害者も生活しており、夫々独立しながら時には家族のように協力し助け合って生活をしている。ホームは地域密着型として地域との関係性を重視し、地域に開かれたホームを目指している。記念文集から、「……人生の最後の時を温かで安全なところで自由に暮らして欲しい。そんな思いでお願いして入居し、あれだけ元気になれたのは皆様の辛抱強い見守り介護があったからだと察しています。母の出来る事を見つけてやらせてくれ、それが母の生きる力になったと思います。」

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回ははじめての評価である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は、職員全員に自己評価票を渡し、それぞれケアの点検をしながら記入された。その内容を職員会議で話し合い管理者と計画作成担当者がまとめた。特に「気づき」で話題になったのは、買い物に出掛けることに、家族の理解がまだ十分に得られない方もいることで、それは地域の認知症に対する誤解や偏見が原因であると思われる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。メンバーは入居者、家族、民生委員、町役場の課長、ホームの関係者等で、同法人の小規模多機能事業所「あいやま」と合同で開催されている。ホームからは生活やケアの様子や課題等をお話し、メンバーからは質問があったり助言を頂いたり、双方向性の会議になっている。委員から催場の駐車場の確保の協力等を頂いたりしている。テーマ(防犯、防災、医療、人権、リスク管理、生活、趣味、等)によっては、メンバーに知見を有する人も幅広く考えて頂きたい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見や苦情は、サービスの質の向上にとって貴重な情報源であるとも言われている。ホームは、訪問時やカンファレンス、運営推進会議等いろいろな機会をとらえ、家族から意見や苦情を聞く努力をしている。ともしれば躊躇しがちな家族の気持ちを察しながら話を聞いてくれる第三者委員を委嘱している事を、家族に繰り返しお話をさせて頂きたい。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは入居者の生活の場であり又地域住民の一員でもある。地域の行事には出来るだけ参加し交流しようと努力している。町のお祭り(ほてい祭り、陶器市など)に気晴らしに見に行くだけでなく、町の福祉祭りには入居者が、編物の作品(ショール、帽子、手袋等)を展示コーナーに出品したり積極的に参加している。ホームは、在宅の認知症ケアの地域拠点であり地域の社会資源でもある。地域の認知症に対する理解を深める為の啓発啓蒙にも努力して頂きたい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型事業所として、地域生活の継続を願い「ゆっくり、いっしょに、楽しく、ゆたかに」と理念を掲げて、年度初めの職員会議では「理念って、どう言う事？」と具体的に内容について職員全員で話し合っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は行動規範として実践されてはじめて活かされる。職員からいろいろのお話をお聞きしたが、ケアの実践にあたって特に意識している事は、「利用者一人ひとりが大切な方」として、即ち「個別ケア」という思いを共有していた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは入居者の生活の場であり、また地域住民の一員でもある。地域の行事には、出来るだけ参加し交流しようとしている。町のお祭り(ほてい祭り、陶器市等)に気晴らしに見に行くだけではなく、町の福祉祭りには入居者が編物の作品(ショール、帽子、手袋等)を展示コーナーに出品したり積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価の意義をよく理解しており、職員一人ひとりに自己評価票を渡し、日常のケアのあり方を点検し記入して頂いた。夫々の自己評価票を職員会議で皆で話し合って管理者と計画作成担当者がまとめた。「気づき」として話題になったのは、地域に認知症に対する偏見や誤解が感じられるという事であった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されている。メンバーは入居者、家族、民生委員、町役場の課長、ホームの関係者で、同法人の小規模多機能事業所「あいやま」と合同で開催されている。会議は事業所から生活の様子や課題などをお話をしメンバーからは質問や助言などを頂き双方向性の会議になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催の研修会や連絡会に担当者は積極的に参加している。また今回の外部評価にも町の職員が同席され、評価調査員と一緒に管理者のお話を聞いて頂いたり、情報を共有する姿勢が見られた。ホームは在宅の認知症ケアの地域拠点として、行政と連携し認知症に対する地域の啓発啓蒙もお願いしたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「一人ひとりにあった対応サービスをして貰っていると思います。様子の変化に対しても即連絡して貰い安心です。家族と居る時よりははるかに安心しています。」(家族アンケートより)面会時には入居者の様子や金銭管理の報告をしている。これならない方には、生活の様子などお知らせし毎月の請求書も送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームは訪問時やカンファレンス、運営推進会議など、いろいろな機会に家族から意見や要望を聞く努力をしている。意見や要望の大切さを管理者は、理解しており第三者委員も委嘱している。ともすれば躊躇しがちな家族の気持ちを理解し、話をよく聞いてくれる第三者委員の事を家族に繰り返しお話をさせて頂きたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとって馴染みの場所、馴染みの物、馴染みの人によるケアが基本である事を管理者は理解している。出来るだけ異動のないように努力されている。異動があった場合には入居者に対して少しでも混乱を起こさないように引継ぎや紹介を丁寧に行なっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアは基準省令にもあるように職員の資質の向上が常に求められている。ホームは研修の年間計画をたて毎月計画に基づいて研鑽に励んでいる。認知症の原因疾患によってその対応の違いなどを理解しており、ピック病についての研修も計画されていた。ケアは対人サービスであり、思いと知識と技術が必要である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他の事業所との交流として「みやぎ共生ネットワーク」の研修や交流会に積極的に参加、実践的な知識や情報を共有している。尚、地域密着型事業の地域のネットワークづくりが今後の課題としており一層の努力をお願いしたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が知らないホームに家族に入れられたという思いを少しでも少なくなるよう、本人、家族、居宅のケアマネジャーとも相談をしながら対応している。本人や家族がホームに来て見てもらったり、空き部屋がある時は泊まって貰ったりし、出来るだけ関係者と顔見知りになって頂けるよう努力されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族らしい家族(擬似家族)を目指し生活を共にしている。入居者から生活の技や生活の文化(昔の風習など)の大切さを教えて頂いている。編物にしても、農作業にしても料理にしても一緒にしながら教えられることがあるという。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の「思いや意向」を把握し共有し活用する事がチームケアの基本である。入居者としんみり話し合える、入浴介助やトイレ介助、散歩買い物などで、何気ない会話やつぶやき等から「思いや意向」を感じ取っている。思いや意向を通して入居者の不安や心配の原因を把握しその人の心の支えになるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はチームケアの要であるので、本人や家族の意向を尊重し、関係者が集まってカンファレンスをして作成している。計画は、個別具体的で短期、長期の目標を立てられている。尚、家族には介護計画を説明し同意を得て写しを渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は病状の変化等で必要に応じて見直しをしている。又定期的には2ヶ月に1回、それまでの実施状況を評価し関係者や家族の意見などを取り入れ介護計画の見直しをしている。見直しの内容についても家族の同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来るだけリロケーションダメージを防ぎケアの継続が望ましいという事で、条件はあるがホームでデイサービスやショートステイを利用し馴染みの関係が出来て入居が出来るようにという事であるが、当ホームは3年経過していないので難しい。又、通院や特別外出等の支援等柔軟に対応し、入居者の満足度を高めるよう日常生活の便宜の提供を期待している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医師の受診や往診が出来るよう支援をしている。通院は家族の付き添いになっているが、ホームでの状況説明の為に職員も一緒に行っている。家族が都合の悪い時は、職員だけでも対応している。「まめに面倒を見て頂き、健康面などにも充分注意して頂いております」(家族アンケートより)		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の健康管理や通院などの医療、看護、介護に対する信頼の延長上に重度や看取りのあり方が問われる。医療の連携体制加算はとっていないが、看取りについては出来る事できない事を含めて、家族とよく話し合い意思確認は頂いている。看取りについては関係者の協力が必要である。重度や看取りについての話し合いはしているが指針は成文化されていない。	○	全国グループホーム協会の調査によれば、63、9%の家族はホームでのターミナルケアを望んでいる。協会では看取りの対応について18項目の配慮すべき着眼点や実践例をまとめられた。来年からターミナル加算も予定され、その重要性も増すと思われるので、指針の成文化を含めて関係者でよく話し合って頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者は人生の先輩として、呼び名ひとつにしても本人の意向を尊重し「さん」づけで呼んでいる。職員の言葉使いや接する態度は穏やかであった。入居者が粗相したような場合は入居者の羞恥心に気を使いそっと声掛けをしている。個人情報の保護取り扱いについては職員はよく理解していた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしの支援は「個別ケア」が基本である。その人の生活のペースやリズムを尊重し、趣味、入浴、外出、就寝など夫々であった。日中の過ごし方も会話を楽しんだり、歌を楽しんだり思い思いであった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に聞いても職員に聞いても、ホームでの楽しみは食事が一番ですと言われた。食事を楽しくかつ美味しくなるように入居者の残存能力を引き出しながら一緒に準備をしている。食事は職員も一緒に同じ物を食しながら、さりげないサポートをし食材について等会話が弾んでいた。行事食や外食なども楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は衛生的な面だけでなく、生活の質の向上として入りたい時に、ゆったり気持ちよく入って頂けるよう努力されている。夕食後その日の疲れを癒しストレス解消になり安眠にも繋がるよう、希望があれば勤務を調整しながらの対応もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	人の役に立ち感謝される事は、その人にとって存在感を高め生きる意欲にも繋がると言われている。入居者は洗濯物をたたんだり、おしぼりを揃えたり家事や畑仕事など楽しみながら出来るように支援している。入居者が少しでも楽しんで参加して頂けるよう環境づくりを大切にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は気分転換やストレス解消になり精神衛生上もよい事を職員は理解しており、入居者が外に出られるよう努力をしている。入居者は喜んで散歩や買い物に出ている。予定表には初詣、花見、ピクニック、紅葉狩り等も計画されていた。「家庭に居る時は殆ど出歩く事は無く(通院以外)今はありがたいと本人も私共も思っています。」(家族アンケートより)		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵を掛ける事は、拘束とも思われる異常性について職員はよく理解している。日中は鍵を掛けない。徘徊気味の人はいるが、出来るだけその人の気持ちになって、見守り、声がけ、一緒に散歩するなど対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	宮城は何時大災害が起きてもおかしくないとされる。又最近高齢者施設の夜間の火災による死者や重傷者が多い。防災訓練は、法人の計画で消防署の指導を受け実施しており、地域の協力も得られているが、災害対策のマニュアルの整備や夜間を想定した避難訓練(1人勤務、照明なし、歩行困難等)も現状にあった形でお願いしたい。	○	消防局の特別査察では「夜間の避難手続きの確認をしたい」としている。マニュアルを整備し火災、地震での夜間を想定した訓練を、誰が勤務でも手順がわかるよう計画をたててほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査を参考にし、美味しく食べやすく(きざみやトロミ等)、栄養のバランスもよい食事を提供しようと努力している。糖尿病の入居者には、医師の指導を受けて対応している。食事量、水分量は毎日チェックし記録している。体重は月1回測定し記録し体調管理をしている。法人の管理栄養士からも助言を頂いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地も広くホーム全体がゆったりとした感じである。室内の照明や日差しは柔らかく、エアコンによる温度や湿度の管理はなされている。老人ホーム特有の臭気のようなものは感じられない。こあがりの畳の部屋は、障子あり堀コタツあり、古い和箆笥等落ち着いた雰囲気があった。居間から眺められる公園は、四季の移り変わりが楽しめる環境にある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の床はクッションフロアでトイレ洗面台付き、エアコンによる温度管理がなされている。居室は自分の居場所としてほっとする空間でありたい。身の回りの使い慣れた家具生活用品等を持ち込むよう家族にお願いしている。テレビ、ラジオ、CDプレーヤーを持ち込んで楽しんでいる人もいるが、終の棲家と思っていない入居者もおり一寸寂しい居室もあった。		